

NCNL

No. 24  
2008.12

## 図書館だより

## 特集： 人生を変えた本との出会い

Contents

ページ

巻頭言	1
「私の人生を変えた本」	
卒業研究と図書館・	2
お役立ち検索サイト紹介	
書評	3
「The Jungle Book」他	
図書館からのお知らせ	4
購読雑誌の新規・中止	
図書館委員会主催研修会	5
報告	
図書館からのお知らせ	6
寄贈図書案内ほか	

## 私の人生を変えた本

講師 渡辺弘之

私の人生を変えた本は、神田憲行さんの

『サイゴン日本語学校始末記』  
(1994、潮出版社)です。

この本と出会った当時、私は二つの選択の間を揺れ動いていました。一つは岡山での仕事の話、もう一つはベトナムでの仕事の話です。

当時大学院生だった私は、専門学校の非常勤講師をしながら東京での生活を送っていました。しかし、旅行で訪れたベトナムに心惹かれ、一度ベトナムで生活してみたいと思いはじめていたのです。そうしたら不思議なことにベトナムでの仕事の話が運良く舞い込み、私は二つ返事でその仕事を引き受けることにしました。

ところがその話からほんのちょっと遅れて、岡山の大学から採用の話が飛び込んできたのです。どちらを取るべきなのか、当時の私は夜も眠れないくらい悩みました。

そんな中、ふと東京・お茶の水にある三省堂書店に立ち寄りました。その時、平積みになっていた神田さんのこの本がたまたま目に入ったのです。それは私にとって運命的な出会いを予感させるものでした。

フリーライターの神田憲行さんは、市場開放政策が始まった直後のベトナムで日本語教師をされた経験をお持ちの方です。この本の中で、ベトナムの一般庶民の様子、サイゴン人とハノイ人の気質の違い、ベトナム人の生徒たちとの出会いと別れなどが神田さんの目を通して生き生きと語られています。

この本を買い求め、一気に読み終えた私の心は既に決まっていました。それから私は神田さんと同じように日本語教師としてベトナムで2年間を過ごすことになりました。その2年間の経験と様々な出会いは今の私の研究テーマ(ベトナムのハンセン病)となり、現在に引き継がれています。

以前、ベトナムで神田さんご本人をお見かけしたことがあります。ぜひお話したかったのですが、その時は残念ながら声をかけることができませんでした。いつかお話しする機会があったら、ベトナムのことについて大いに語り合いたいと思っています。

(写真は1997年1月頃。当時教えていたホーチミン人文社会科学大学日本語学科の学生さんたちと。最前列中央が渡辺先生)

※講談社文庫『ハノイの純情、サイゴンの夢』(1998、神田憲行著)に再収録。絶版品切れにつき図書館では未所蔵ですが、渡辺先生から直接借りることができます。



## 卒業研究と図書館



平成20年12月17日に「卒業研究発表会」が、第1、2、第4～6講義室において、開催されました。4年生がこの数ヶ月にわたって努力した研究成果を発表するものです(写真左上)。

学内の教職員・学生だけでなく、外部からもお見えになった方々がありました。

この卒業研究に大きな働きをしたのが、図書館です。本学の図書館は上越地域では唯一の看護学専門書を数多く集めた図書館で、毎月100名以上の看護関連の学外利用者がいます。

4年生の吉崎真未さんに「図書館は役に立ちましたか？」と伺いました。「はい。文献資料、専門書を使わせてもらいました。」との嬉しい答えをいただきました。(写真左下 発表中の吉崎さん)



下の写真は、発表が終わりほっとしている風景です。終わったという緊張感からの解放で、すこしはしゃぎすぎて「隣の部屋では終わっていないので静かにしてください。」と注意されてしまいました。



(左から吉崎さん、友人2名、大久保先生)

## お役立ち検索サイト紹介



書館に所蔵のない雑誌論文を、他大学へ複写依頼する場合は、まずCiNiiやJ-STAGEなどの無料電子ジャーナル検索サイトで全文入手ができないか確認する必要があります。それぞれ個別に検索しなければなりません、実践女子大学・短期大学図書館が作成したDOAJ J

(Directory of Open Access Journals in Japan Ver.1)であれば、CiNiiやJ-STAGEはもちろんのこと、大学・研究機関等の機関リポジトリ(※p5参照)に登録されている電子ジャーナルも探すことができます。

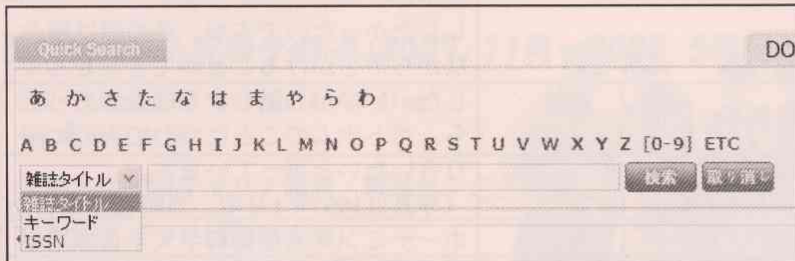


図. DOAJ J 検索画面

“本文なし”となっていた場合に、“DOAJ J 検索”アイコン(緑)を押してみてください。

雑誌名、キーワード、ISSNで検索します。電子ジャーナルが存在すれば、そのサイトにリンクします(全文リンクではありません)。

医中誌webおよびCiNiiからもリンクを設定しましたので、医中誌では“CiNii本文あり”アイコンや“J-STAGE”アイコンが表示



が無ければ、クリック

DOAJ J 検索



## 連載企画 書評

『The Jungle Book』『The just so stories』  
『クマのプーさん』『プー横丁に建った家』  
『ホビットの冒険』『指輪物語』

助教 Simon Elderton

There is a group of three British authors who were born in the latter half of the 19<sup>th</sup> century who all penned works that shaped my life. Chronologically, the first of the three is Rudyard Kipling who wrote *The Jungle Book* (1894) and *The Just So Stories* (1902). His short stories were a mixture of prose and poetry verse that was to shape the writing of English children's books for the next few generations. The stories incorporated adventure and nature, the settings were exotic (India and Africa) and the descriptions were vivid and involving. Words were used not just for their meaning, but for their sound and their rhythm and the stories became pictures and images of far off wild and beautiful places. The main characters were often animals that were given human attributes and were presented as pure, with the simple virtues of love and loyalty and the desire to do what is right.

Alan Alexander (A.A.) Milne comes next on my list of three. His works star a lovable set of characters that are now probably best known because of being taken over by the Disney franchise. *Winnie-the-Pooh* was published in 1926 and *The House at Pooh Corner* was published in 1928. Both these books and a number of other connected children's verses became the body of work that A.A. Milne is remembered for. The stories he penned for his son Christopher Robin Milne have become world famous. They are wonderfully imaginative, peaceful and loving stories of friendship, loyalty and basic common sense values that use Christopher Robin Milne's real stuffed toys as the basis for the main characters. Just as in Kipling's stories, there is a mixture of prose and verse that is full of warmth and humour. There is so much wisdom to be gained from the way the animals interact in the stories and the world of Winnie-the-Pooh is an ideal that we all hope to share with our children.

The third on my list is John Ronald Reuel (J.R.R.) Tolkien. *The Hobbit* (1936) and *The Lord of the Rings* (1955) are books I have read and reread many times. The world that Tolkien created was called the Middle Earth, and the central characters had many of the same qualities of purity, loyalty, friendship and sense of good that Kipling's and Milne's characters display.

(4 ページに続く)

私の人生に影響を与えた3人の英国人作家の作品について紹介します。

まず、ラドヤード・キップリングの『ジャングル・ブック』

(1894)と『*The Just So Stories*』(1902) (日本語訳はまだないようですが、「ぞうのはなはなぜ長い」はこの全集の中の一つの話です。)

彼の散文と詩を混ぜ合わせた短編小説はその後数世代に渡って、英語の児童文学に大きな影響を与えました。インド やアフリカといったエキゾチックな設定を背景に、冒険と自然を話の中に取り入れ、鮮やかな記述で、読んでいるとその世界に入り込んでしまいます。言葉は意味だけではなく、音やリズムとして使われ、遠く離れた美しい自然が絵やイメージとして浮かんできます。メインキャラクターは人間の徳性を持った動物たちで、愛と忠誠心と正義感という簡素な美徳を兼ね備え、とても純粋です。

次はアラン・アレクサンダー・ミルンの作品です。現在、ディズニーのおかげでおそらくミルンのクマのプーさんのキャラクターたちを知らない人は日本ではいないかも知りません。でもプーさんの話はディズニー以前に世界中で愛された児童文学として知られた作品です。『クマのプーさん』は1926年に、『プー横丁に建った家』は1928年に出版されました。その2冊と他のたくさん関連した子供の詩歌は、A. A. ミルンが読者の記憶に残る作品になりました。

(4 ページに続く)



Joseph Rudyard Kipling (1865-1936)

—イギリス人作家、詩人。インドのムンバイ (ボンベイ) に生まれ、イギリスで教育を受けた。イギリス人作家で最初のノーベル文学賞受賞者。

Alan Alexander Milne (1882-1956)

—ロンドン生まれのスコットランド人。イギリスの児童文学作家、詩人。

John Ronald Reuel Tolkien (1892-1973)

—イギリスの文献学者、作家、オックスフォード大学教授。代表作は『指輪物語』。

(3 ページから続く)

There is a strong belief that pure good exists and the world should be a place where people live in harmony with neighbour and nature and with humour and humility in their hearts. Tolkein experienced two world wars and saw first hand that sometimes the ideal world can seem far away, but his stories show us there is always hope and that hope is the source of strength even in times of weakness and desperation. My parents read to me when I was a child, and some of my fondest childhood memories come from the stories they shared with me. These stories helped shape my understanding of the world and what I value in life. I read to my kids now, and these are some of the stories I share with them.



書評の中で図書館所蔵タイトル

- The Jungle Book (Penguin readers)  
請求記号：837.7-P37-2(棚24右側・2階)
- 指輪物語 (評論社文庫) 全10巻  
請求記号：933-To47-1(~10)・文庫新書コーナー

(3 ページから続く)

彼の息子クリストファー・ロビン・ミルンのために作った作品は世界中に知られることになりました。それらは、彼の息子が本当に使っていたぬいぐるみを主人公にして、友情、忠誠心、そして基本的な常識的価値観を伴う、とても想像に満ち溢れた平和で愛情深い物語です。キップリングの話と同じように散文と詩を混ぜ合わせたユーモアと愛情たっぷりの話です。プーさんたちの賢明な名言で理想的な世界を表現しています。

最後はジョン・ロナルド・ロウエル・トールキンの作品、『ホビットの冒険』(1936)と『指輪物語』(1955,1956)です。トールキンが創った世界はミドルアースと呼ばれ、中心的な登場人物たちはキップリングとミルンのキャラクターと同じような友好・忠誠心・正義感という特性を持っていて、どちらかというところの本は大人むきの冒険の話です。何回読んでも飽きない作品です。この話では、人間はユーモアと謙虚な心を持ち、隣の人と手を組んで、自然とともに平和的に住むべきだということが伝わってきます。でも、トールキンは第一・第二次世界大戦を経験し、そのような理想的な世界は身近にはないこともあると気づきますが、彼の物語では希望があれば、弱って、絶望しそうなどきでも強くなれることを教えてくれます。

子供のころに両親がこれらの紹介した本も含めていろいろな話を読んでくれて、本当にいい思い出になりました。これらの本は私が人生で評価する特性や美徳、世界を理解する力に影響を与えてくれたと思います。今、そういう理由で自分の子供にいろいろな本を読み続けています。

## 図書館からのお知らせ

### 購読雑誌の新規購入・中止

成21年購読雑誌を検討した結果、新規購読雑誌および購読中止雑誌が下記のとおり決定しました。予算の都合上、中止タイトルが多くなりました。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

#### ○新規購読雑誌

- Journal of Gerontological Nursing

#### ○購読中止雑誌

- Age & Aging
- American Journal of Epidemiology (Inc. Epidemiologic Reviews)
- American Journal of Infection Control
- Archives of Psychiatric Nursing
- British Journal of Midwifery

- British Journal of Nursing
- Clinical Nursing research
- Home Healthcare Nurse
- Journal of Family Nursing
- Nurse Practitioner
- Nursing
- Nursing & Health Sciences
- Nursing Philosophy
- Perspective in Psychiatric Care
- Psychiatric Services
- Research in Nursing & Health
- WHO technical report series

#### ● AERA

- ICUとCCU
- 心身医学
- 腎と透析
- 社会保障研究
- 日本老年医学会雑誌
- リハビリテーション医学
- 臨床外科
- 臨床心理学研究

## 図書館委員会主催研修会報告

## 研究成果発信と学術情報リポジトリ

去る平成20年10月23日(木)に、  
 本学図書館委員会主催の研修会が、  
 “研究成果発信と学術情報リポジトリ”とい  
 うテーマで開催されました。

新潟大学学術情報部より講師を招いて講演  
 いただきました。参加者は本学教職員13  
 名、上越教育大学職員1名の計14名でし  
 た。

講演内容は、1. 学術リポジトリの概要、  
 2. 機関リポジトリと著作権処理の実際、  
 3. 山形県で行われている大学コンソーシア  
 ムにおけるリポジトリ“ゆうキャンパスリポ  
 ジトリ”についてでした。



リポジトリとは「大学などの研究成果を登  
 録・保存し、インターネット等で無償公開す  
 るサービス」です。Googleからも検索でき  
 るため世界に向けて公開しているとも言えま  
 す。なぜ大学が研究者の研究成果の保存に努  
 めなければならないのでしょうか？

大学がリポジトリを構築するメリットは、  
 1. 外国雑誌価格の高騰および電子ジャーナ  
 ル化により小規模大学は学術雑誌が入手困難  
 となり、そこから生じる大学間の格差と読者  
 層の限定(論文が読まれにくい)にリポジ  
 トリが対抗できる手段であること、2. 無料で  
 公開されることによって研究論文の被引用率  
 がアップすること、3. 大学にとって、地域  
 社会への貢献や説明責任を果たせることで  
 した。また、大学という社会的信用のある機関  
 が学術論文を収集・永久保存し公開すること  
 で、利用者は安心して論文を検索・利用す  
 ることができること、大学はそうした役割を  
 担っていかなければいけないことがわかりま  
 した。

しかし、リポジトリを始めるにあたっての不  
 安材料として「著作権処理」と「労力」があり  
 ます。学術雑誌に掲載された自分の論文を共著  
 者や出版社側に確認する過程についての不安が  
 参加者から聞かれました。しかし、学術雑誌に  
 掲載された論文であっても、査読が済み掲載許  
 諾(アクセプト)を受けることになった最終原  
 稿は「著者最終版(ポストプリント)」と呼ば  
 れ、それは公開可能であることがわかりまし  
 た。

講演後は、参加者から質問が相次ぎました。

参加者へは講演後にアンケートを実施しまし  
 たが、感想はおおむね良好でした。おもな感想  
 は次のとおりです。

## ○リポジトリについての感想

・有料ジャーナルからの取り寄せを考えると  
 とともラク。研究論文を多く短期間に収集す  
 ることができる利点はある。その反面、これに  
 携わる人たちの苦労は多いと思う。県立大学  
 という点から地域貢献になることは進めていく  
 義務がある。是非、もつべきだ。

## ○今回の研修会についての感想

・すごくたくさん外部講師がいることに驚  
 いた。著作権の問題をどのように扱ったらよ  
 いか、参考になることが多かった。リポジ  
 トリ導入に伴う利点(例えば引用率の上昇など)  
 が理解でき、その活用が進められていけばよ  
 いと思う。分かりやすい説明だった。短時間  
 で内容の濃いものだった。1回では難しいと  
 思い、事前に勉強していたが、理解しやすか  
 った。タイムリーな研修があるとよいと思っ  
 た。著作権についてよくわかった。大変参  
 考になった。

○本学図書館が今後どのように取り組んでい  
 くことを望みますか？

・他の大学と協力していくとよいのかもしれ  
 ない。前向きに進めて行かれるとよい。看護  
 大独自のリポジトリを持つよりも、共同での  
 参加が有効的だと思う。始めるにあたり、整  
 備等が大変かと思うが、前向きにリポジトリ  
 参加の方向に取り組んでいただきたい。

アンケートでは、リポジトリ構築に対して前  
 向きな意見が得られました。新潟県大学図書館  
 協議会では、「新潟県内共同でのリポジトリ構  
 築」が提案されているところです。本学がそ  
 こに加わるかどうか、予算・人的な面を考慮し  
 つつ検討を進めていきたいと思えます。

## 図書館からのお知らせ

## 学生リクエストでの購入図書

前号で“図書のリクエスト方法”をお知らせしました。今回は今年、学生リクエストで購入した図書をご紹介します。

○海堂尊『ナイチンゲールの沈黙』上・下  
(宝島社文庫) (請求記号: 913.6-Ka21-2-1,2  
文庫・新書コーナー)

この作品は、映画化もされた『チーム・バチスタの栄光』(請求記号: 913.6-Ka21-1-1,2)の続編。“メディカル・エンターテインメント”とも称されているシリーズで、作者は日本の医療が抱えている問題を、ミステリー小説として書くことで幅広く人々に伝えようとしている。今作は看護師が物語の最重要人物となっており、癌患者やネグレクトなどがテーマの一つにある。

○東京医科大学病院『これで安心! はじめての夜勤』中央法規(請求記号: N231-To46 棚2

右側)

卒業研究に必要という理由でリクエストされた。夜勤については雑誌論文では多く書かれているが、当館では夜勤体制を中心に述べられている図書がNICUに関するものしか所蔵していなかった。新人看護師を対象に書かれてはいるが、事前に知っておくことや心構えなど、経験年数に関係なく看護師として知っておくべき知識が盛り込まれている。

○ビビアン・プライアほか著『愛着と愛着障害』北大路書房(請求記号: 146.82-P93 棚14左側)

児童虐待や育児放棄の問題などとの関連で“愛着理論”が注目を集めている。実際の臨床場面での手引きとなるよう、愛着理論のエッセンスを始め、学術的な証拠に基づいた具体的な査定方法や介入方法を詳しく紹介している。

## 寄贈図書案内

下記のみなさまより著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。(2008/6/1~2008/11/30受入分)

〈五十音順〉

	寄贈者	書名	出版年	請求記号
教員	井上みゆき	新生児看護の倫理	2008	N472-157
	北川公子	特別養護老人ホームにおける痴呆高齢者の終末期の様相と看護ケアの課題	2007	N680-Ki63
	藤田 尚	韓国靑島出土人骨に関する形質人類学的研究	2007	469.4-F67
	吉山直樹 「病院の言葉」委員会 実務委員	「病院の言葉」を分かりやすくする提案 中間報告 (国立国語研究所「病院の言葉」委員会[編])	2008	490.14-Ko49
学外	中村雅彦	雪国上越の鳥を見つめて	2008	488-J59

## 新規寄贈受入紀要タイトル(2007/11月~2008/5月受入分)

〈五十音順〉

SCU journal of design & nursing (札幌市立大学)	目白大学健康科学研究
北里大学看護キャリア開発・研究センター紀要	山形大学高等教育研究年報 山形大学高等教育研究企画センター紀要
研究紀要(つくば国際大学)	横浜創英短期大学紀要
大学行政管理学会誌	琉球大学生涯学習教育研究センター研究紀要
高崎健康福祉大学紀要	了徳寺大学研究紀要
獨協医科大学看護学部紀要	産業保健21 (学術雑誌)

NCNL 図書館だより 第24号(2008年12月25日発行)

編集: 新潟県立看護大学 図書委員会

〒943-0147 上越市新南町240番地

E-mail: tosyo@niigata-cn.ac.jp

発行: 新潟県立看護大学 図書館

TEL: 025-526-1169

URL: http://lib.niigata-cn.ac.jp/